

商品名 サラゾスルファピリジン腸溶錠500mg「SN」 医薬品基本情報

薬効	6219 その他のサルファ剤	一般名	サラゾスルファピリジン500mg腸溶錠
英名	Salazosulfapyridine SN	剤型	腸溶錠
薬価	14.00	規格	500mg 1錠
メーカー	シオノケミカル	毒劇区分	

サラゾスルファピリジン腸溶錠500mg「SN」の効能・効果

関節リウマチ

サラゾスルファピリジン腸溶錠500mg「SN」の使用制限等

1. 類薬で過敏症の既往歴、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. 血液障害、気管支喘息、急性間歇性ポルフィリン症、グルコース-6-リン酸脱水素酵素<G-6-PD>欠乏、薬剤に対し過敏症の既往、腎機能障害、肝機能障害	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

サラゾスルファピリジン腸溶錠500mg「SN」の副作用等

1. PIE症候群、線維性肺胞炎、発熱、咳嗽、喀痰、呼吸困難、呼吸器症状	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
2. 心膜炎、胸膜炎、呼吸困難、胸部痛、胸水	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
3. 無顆粒球症、貧血、溶血性貧血、巨赤芽球性貧血、葉酸欠乏、中毒性表皮壊死融解症、Toxic Epidermal Necrolysis、TEN、過敏症症候群、伝染性単核球症様症状、発疹、発熱、感冒様症状、リンパ節腫脹、肝機能障害、肝腫、白血球増加、好酸球増多、異型リンパ球出現、遅発性の重篤な過敏症状、急性腎障害、ネフローゼ症候群、間質性腎炎、消化性潰瘍、出血、穿孔、S状結腸穿孔、脳症、意識障害、痙攣、無菌性髄膜炎、無菌性髄膜脳炎、頸部硬直、項部硬直、頭痛、悪心、嘔吐、意識混濁、SLE様症状、黄疸、肝不全、劇症肝炎、ショック、アナフィラキシー、血圧低下、呼吸困難	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明

4. 血小板減少、肝機能障害	記載場所	重大な副作用
	頻度	5%未満
5. 間質性肺炎、薬剤性肺炎	記載場所	重大な副作用
	頻度	0.1%未満
6. 再生不良性貧血、汎血球減少症、播種性血管内凝固症候群、DIC、皮膚粘膜眼症候群、Stevens-Johnson症候群、紅皮症型薬疹、著しいAST上昇、著しいALT上昇、肝炎	記載場所	重大な副作用
	頻度	0.1%未満
7. 浮腫、悪心、嘔吐、腹痛、口内炎、胃不快感、食欲不振、発疹、そう痒感、発熱	記載場所	その他の副作用
	頻度	頻度不明
8. 尿路結石、膀胱炎、口腔咽頭痛、過敏症、光線過敏症、血清病、抑うつ、精子数の可逆的な減少、精子運動性の可逆的な減少	記載場所	その他の副作用
	頻度	頻度不明
9. 白血球減少、免疫グロブリン減少、顆粒球減少、異型リンパ球出現、好酸球増多、AST上昇、ALT上昇、蛋白尿、BUN上昇、血尿、腫脹、糖尿、脱毛、便秘、腹部膨満感、下痢、口唇炎、胸やけ、舌炎、口渇、顔面潮紅、紅斑、蕁麻疹、頭痛、末梢神経炎、めまい、うとうと状態、耳鳴、倦怠、味覚異常、心悸亢進、筋肉痛、胸痛、関節痛、嗅覚異常	記載場所	その他の副作用
	頻度	5%未満
10. 著しいAST上昇、著しいALT上昇、肝炎、肝機能障害、黄疸、肝不全、劇症肝炎	記載場所	使用上の注意
	頻度	頻度不明
11. 急性腎障害、ネフローゼ症候群、間質性腎炎	記載場所	使用上の注意
	頻度	頻度不明
12. 溶血、催奇形作用、高ビリルビン血症、血便、血性下痢、悪心、嘔吐、胃腸障害、腹痛、精神神経系症状、傾眠、痙攣、甲状腺腫、甲状腺機能異常	記載場所	使用上の注意
	頻度	頻度不明

サラゾスルファピリジン腸溶錠500mg「SN」の相互作用

- 薬剤名等：スルホニルアミド系経口糖尿病用剤

発現事象 低血糖

理由・原因 代謝抑制又は蛋白結合の置換により、作用が増強

投与条件 -

指示 注意

- 薬剤名等：スルホニルウレア系経口糖尿病用剤

発現事象 低血糖

理由・原因 代謝抑制又は蛋白結合の置換により、作用が増強

投与条件 -

指示 注意

- 薬剤名等：クマリン系抗凝血剤

発現事象	血中濃度が上昇しプロトロンビン時間が延長	投与条件	-
理由・原因	併用薬の代謝が抑制	指示	注意

4. 薬剤名等：葉酸

発現事象	吸収が低下し大赤血球症・汎血球減少を来す葉酸欠乏症	投与条件	-
理由・原因	-	指示	注意

5. 薬剤名等：ジゴキシン

発現事象	吸収が低下	投与条件	-
理由・原因	-	指示	注意

6. 薬剤名等：アザチオプリン

発現事象	白血球減少等の骨髄抑制	投与条件	-
理由・原因	本剤はこれらの薬剤の代謝酵素であるチオプリンメチルトランスフェラーゼを阻害	指示	注意

7. 薬剤名等：メルカプトプリン

発現事象	白血球減少等の骨髄抑制	投与条件	-
理由・原因	本剤はこれらの薬剤の代謝酵素であるチオプリンメチルトランスフェラーゼを阻害	指示	注意



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』